

環境報告書 2011



東芝テリー株式会社

目 次

はじめに	1
1. 事業の概要	2
1)会社概要	
2)製品紹介	
2. 環境マネジメントシステムについて	3
1)環境マネジメントシステム	
2)環境保全体制	
3)基本理念/基本方針	
4)目的及び目標	
5)環境負荷	
6)環境関連主要施設配置図	
7)環境会計	
8)環境教育	
9)異常想定訓練の実施	
10)環境保全活動	
11)環境監査・審査	
3. 事業活動での環境配慮	10
1)エネルギー使用量の管理	
2)廃棄物排出量の管理	
3)化学物質取扱量の管理	
4. コミュニケーション	11

報告対象組織及び対象範囲

本環境報告書の記載範囲は、当社本社工場と工場敷地内の関係会社や常駐会社を含みますが、全国の事業拠点は含まれておりません。
本環境報告書は、東芝テリー(株)の2010年度(2010年4月1日から2011年3月31日まで)の環境保全活動に関する取り組みと成果について報告したものです。一部それ以前からの取り組みや、直近の活動報告も含んでいます。

ご挨拶



代表取締役社長

林 幸宏

－ 映像システムソリューションを軸に、繁栄の21世紀実現に貢献します。－

21世紀は映像とネットワークの時代と言われています。一瞬のうちにインターネットで現場の映像が必要なタイミングで必要な人に届けられるようになってきました。新たな技術革新が今まさに始まっており、私たちは、私たちの生活とそれを支える産業・社会が大きく変貌を遂げようとする時期に遭遇しています。東芝テリーは、このような時代に、確かな技術をベースに、お客様のお役に立つ「映像ソリューション」をお届けし、お客様への価値提供を通して、社会に貢献することを第一の使命と考えております。

また、お客様のご要望、ご要求に対し迅速にお応えすることをモットーに、お客様とともに新たな技術による新しい世界を構築し、納入させていただいている製品に対するサポートを含め、製品のライフサイクルを通じて、お客様にご満足していただくことが無上の喜びであります。このために、過去の蓄積を大切にしながら、最新の技術を常に製品に活かして商品開発を進め、お届けする製品は最高級の品質を追求してまいります。更に、このかけがいのない地球を守り、私たちの世代が後世に禍根を残すことが無いように、環境問題には鋭意取り組み、社会的責任をしっかりと果してまいります。

以上の考え方をもとに、東芝テリーは、センシング、ネットワーキング、インテリジェンス、高周波技術を基本的技術軸として捉え、これらを中心に技術開発、製品開発を進めて、産業用カメラ・医療用カメラ、監視カメラ、検査装置、MRI電源等の分野で、お客様のご要求に最も適した製品とサービスをお届けし、お客様に貢献させていただく所存でございます。同時に国内のみならず海外でのグローバルな貢献も目指してまいります。

1. 事業の概要

1) 会社概要 (2011年12月現在)

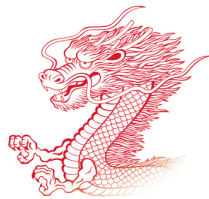
- ・所在地……東京都日野市旭が丘4丁目7番地1
- ・代表者……取締役社長 林 幸宏
- ・事業内容……産業用エレクトロニクス、システムの開発・製造及び販売
- ・設立年月……1950年2月17日
- ・資本金……2億6千万円
- ・従業員数……481名（関係会社含む）
- ・敷地面積……20,421 m²（本社工場）
- ・延床面積……12,791 m²（本社工場）
- ・年間売上高……12,025 百万円(10年度)
- ・その他の拠点
 - ・東京事務所（東京都港区）
 - ・関西支店（兵庫県神戸市）
 - ・中部支店（愛知県名古屋市）
 - ・九州支店（福岡県福岡市）
 - ・上海支店（中国・上海）
- ・関係会社……日豊インダストリー株式会社



2) 製品紹介(当社の主な製品の一部を紹介しています)

20mm口一体形デジタルカメラ

VGA フォーマット対応の全画素読み出し方式インターライン型 CCD を採用した一体型白黒カメラです。従来の CCD カメラの駆動周波数を3倍にすることにより、高速化を実現。カメラ本体は小型・軽量で機器組込に最適です。



高感度カラーカメラ

高性能 1/3 形 CCD、DSP を搭載し高感度・高解像度を実現したカラーカメラです。また 3D-NR（ノイズリダクション）を装備し低照度でも鮮明に撮影が可能。いつでも、どこでも、「鮮明に撮れる」、オールラウンド監視カメラです。



デジタルビデオレコーダ

ワイヤレスデカ文字リモコンによる簡単操作など、使い勝手を一番に考えたシンプル操作を実現。H.264 画像圧縮方式により高画質・長期録画を実現しており、録画データも USB-HDD、USB フラッシュメモリで簡単に持ち出し可能です。また、電波時計を利用し、システムの時刻を統一し長期利用による時刻のずれを防止することが出来ます。



高周波電源

空冷方式採用、小型、軽量化を図った MRI 用高周波電源です。低磁場用（0.5 T以下）から高磁場用（1.5 T）まで、最大出力 20KW まで対応可能です。



2. 環境マネジメントシステムについて

1) 環境マネジメントシステム

東芝テリー株式会社 本社工場は環境マネジメントシステム国際規格「ISO14001」の認証取得事業所です。

・EMS概念図



・ISO14001 認証取得

外部機関による審査を3年ごとに受審し、認証を更新しています。

認証機関：Bureau Veritas Japan Co., Ltd.

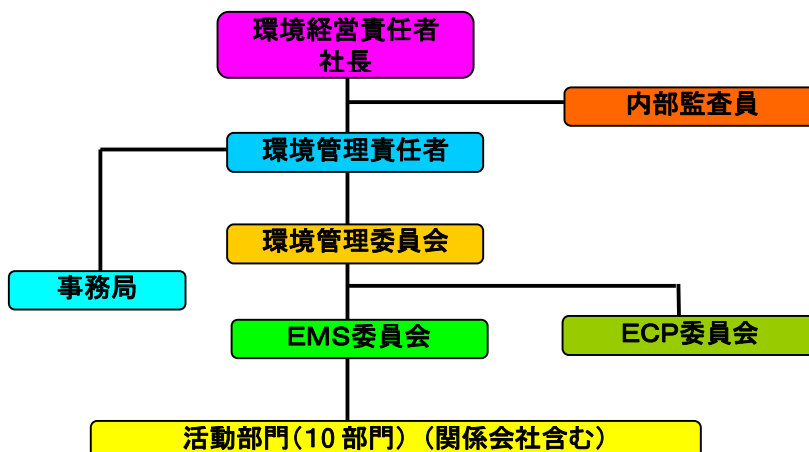
認証番号：780796

2000年3月	認証取得
2003年4月	認証更新
2006年3月	認証更新
2009年1月	認証更新



2) 環境保全体制

東芝テリー株式会社では、環境マネジメントシステムの継続的改善を図るため、環境保全推進体制を以下のように構築し、各自の責任および権限を明確に定めています。



3) 基本理念/基本方針

東芝テリー株式会社 環境経営基本方針

——〔基本理念〕——

東芝テリー株式会社は、「“かけがえのない地球環境”を、健全な状態で次世代に引き継いでいくことは、現存する人間の基本的責務」との認識に立って、豊かな価値の創造と地球との共生を図ります。低炭素社会、循環型社会、自然共生社会を目指した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。

——〔基本方針〕——

東芝テリー株式会社は“緑と清流のまち日野市”に立地し、産業用映像機器・高周波電源の開発・製造拠点として、環境調和型製品を提供し、環境に配慮した事業活動の推進により、地域住民と共存し社会生活や経済活動に貢献します。

そして、環境への取組みを積極的に推進し、「全員できれいな地球を次世代へ！」をスローガンに全員参加で次により推進します。

1. 環境への取組みを会社経営の最重要課題の一つとして位置付け、技術的・経済的に可能な範囲で推進します。
2. 本方針達成のため、生物多様性を含む環境への影響を評価し、環境目的、及び同目標を定め、計画的に活動すると共に、活動内容を自主的に見直し、継続的改善及び汚染の予防に取り組めます。
3. 環境側面に関する法令、その他当社が同意した行動指針等の遵守は企業の責務であり、さらに可能な限り自主管理基準を設けて、維持・向上を図ります。
4. 当社の事業活動、製品・サービスに係わる環境側面について、環境負荷の低減に配慮した次の環境活動を推進します。
 - (1)環境調和型製品の提供
 - (2)製品含有化学物質管理
 - (3)地球温暖化防止
 - (4)資源の有効活用
5. 従業員の環境意識をより高め、全員で環境活動に取り組むと共に、地域・社会との協調を図り、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。
6. グループ一体となった環境活動を推進するため、関係会社等への指導・支援を行なうと共に地域・社会との協調連帯を図ります。

2011年 7月 4日

東芝テリー株式会社
取締役社長 林 幸宏

4)目的及び目標

カテゴリー	環境目的 (2012 年度)	環境目標 (2011 年度)	行動内容 (方法・手段)
環境調和型製品の提供	2012 年度に 環境調和型製品の売上げ 高比率 85%	2011 年度に 環境調和型製品の売上げ 高比率 80%	・ECP 基準に基づいた新商品の開発 ・開発品の DR と ECP チェック実施 ・製品環境情報の開示
製品含有化学物質管理	2010 年度に 製品に含まれる特定 15 物質全廃 ¹	2011 年度に 製品に含まれる特定 15 物質全廃	・含有状況調査及び代替
地球温暖化防止	1990 年度基準として 2012 年度に CO ₂ 排出量原単位 27.5%削減	1990 年度基準として 2011 年度に CO ₂ 排出量原単位 26.25%削減	・設備の高効率化、負荷低減 ・新エネルギー導入
資源の有効活用	2000 年度基準として 2012 年度に ・廃棄物総発生量原単位 24%削減 ・廃棄物最終処分率 0.5%未滿	2000 年度基準として 2011 年度に ・廃棄物総発生量原単位 22%削減 ・廃棄物最終処分率 0.5%未	・3R 推進による廃棄物排出量の削減 ・廃棄物の分解・分別によるリサイクル化

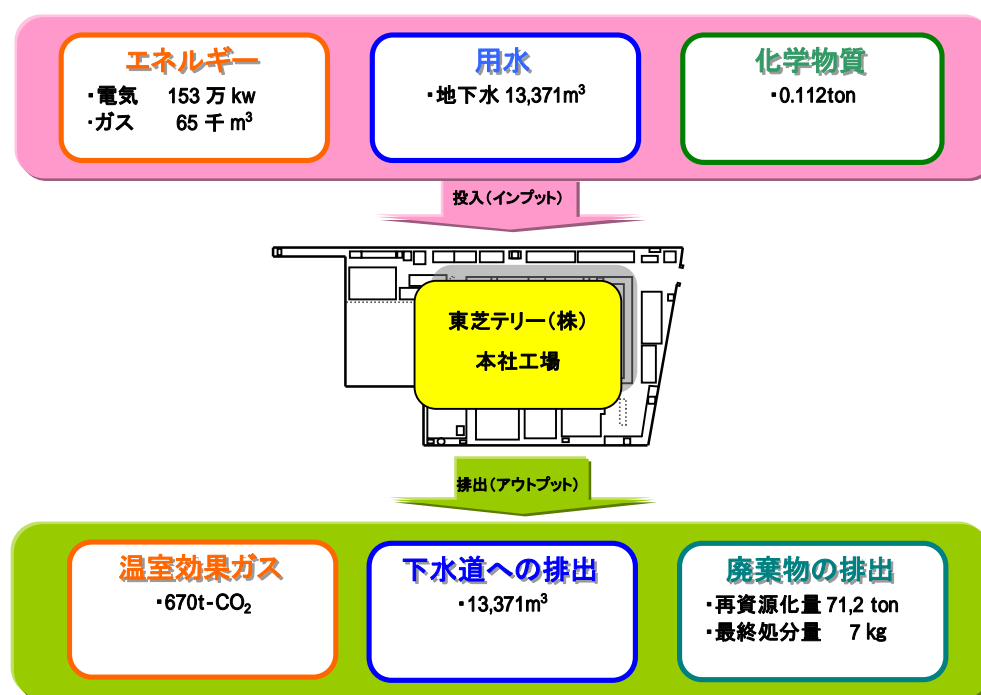
1 詳細定義及び除外製品は別途定めます

5)環境負荷

当社の事業活動に伴う環境負荷で主なものは、電力、ガス等のエネルギーの使用、廃棄物の排出、公共用水域への排水、化学物質の使用等があります。これらは継続的な監視・測定によるデータの収集を行なっています。

水質・大気・騒音・振動は定期的に測定し法規制値、自主基準値と比較し問題ないことを確認しています。

----- 環境負荷概要 -----



6)環境関連主要施設配置図



[著しい環境側面]	[発生施設・工程名]
電力の使用	照明、施設、設備
燃料の使用(ガス、ガソリン)	冷暖房機、厨房、営業車
鉛はんたの使用	製造工程
溶剤類の使用	洗浄剤、接着剤・製造工程
用紙の使用	コピー機、プリンター
地下水の揚水	井戸ポンプ
汚水、雨水の排出	洗面所、流し台、トイレ、雨水側溝
廃棄物の排出(再生・埋立)	屋外廃棄物集積所、職場内廃棄物置場
騒音、振動の発生	コンプレッサー
梱包材の排出	納入業者・製造工程
溶剤類の保管(漏洩)	職場内保管庫
PCBの保管(漏洩)	PCB保管庫

7)環境会計

当社は東芝グループの一員として「環境会計」を導入しており、環境保全に関わるコストを把握しています。コスト分類や算出基準は、環境省環境会計ガイドラインに準拠しています。

(集計期間:2010年04月01日~2011年03月31日)

・環境保全コスト

事業活動に起因する環境への負荷を抑制すること等を目的としたコスト。

(単位:千円)

分類	内容	投資額	費用額
事業エリア内コスト	環境負荷低減	106	7,373
上・下流コスト	グリーン調達、リサイクルなど	0	1,425
管理活動コスト	環境教育、EMS維持、工場緑化など	0	3,343
研究開発コスト	環境調和型製品開発など	0	3,506
社会活動コスト	地域環境支援、寄付など	0	65
環境損傷対応コスト	土壌汚染修復など	0	0
合計		106	15,712

・環境保全効果

環境保全活動により達成された、環境負荷低減の効果及び事業活動でもたらされた効果。

(単位:千円)

分類	内容	効果額
実質効果	電気料金や水道料金などの削減で直接金額表示できるもの	0
みなし効果	環境負荷の削減量を金額換算したもの	75
顧客効果	使用段階での環境負荷低減効果を金額換算したもの	11,163
リスク回避効果	投資前の環境リスク減少額を算出したもの	51
合計		11,289

8)環境教育

当社では、従業員並びに協力会社を対象として、環境教育を実施しています。

教育の種類	対象	時期	受講人数	受講率
新入社員教育	新入社員	2010/4月	3名	100%
環境教育(e-Learning)	全従業員(関係会社含む)	2010/8月	559名	100%
部門教育(各部門で実施)	全従業員(関係会社含む)	2010/04~2011/03		100%

9)異常想定訓練の実施

特定作業に従事する従業員に対し異常想定訓練を実施し、事故・緊急事態の発生時に環境への影響を最小限に食い止めるため適切な行動が取れるよう備えています。

- ・各製造現場で使用している化学物質の漏洩を想定した対応訓練を実施



10)環境保全活動

2010年度の環境目標の達成状況は、以下ようになりました。

環境調和型製品の未達要因は、全体的に販売低迷しており売上高比率も低下したことによるものと考えています。2010年度の結果を踏まえ2011年度の活動を致します。

カテゴリー	環境目標	実績	評価
環境調和型製品の提供	2010年度に 環境調和型製品の売上げ高比率 80%	環境調和型製品の売上高比率 78%	未達
製品含有化学物質管理	2010年度に 製品に含まれる特定 15 物質廃止機種 ¹ 売上げ高比率 100%	製品に含まれる特定 15 物質廃止機種 ¹ の売上 高比率 100%	達成
地球温暖化防止	1990 年度基準として 2010 年度に CO ₂ 排出量原単位 25%削減	・CO ₂ 排出量原単位 32.8%削減(7.27t-CO ₂ /億 円)	達成
資源の有効活用	2000 年度基準として 2010 年度に ・廃棄物総発生量原単位 20%削減 ・廃棄物ゼロエミッション維持	・総発生量原単位 45.6%削減(0.78t/億円) ・最終処分率 0.1%(ゼロエミッション維持)	達成

1 詳細定義及び除外製品は別途定めます

11)環境監査・審査

当社では、環境マネジメントシステムの維持・向上のために、以下の監査を実施しています。

・内部監査

ISO14001 規格の要求事項に基づく環境マネジメントシステムの運用状況を、内部監査員により検証しています。(年1回実施)

・東芝総合環境監査

東芝総合環境監査制度に基づき、環境経営、現場の設備・施設の管理・運用状況及びサイトの遵法状況を、総合的にチェックし評価します。(年1回実施)



・ISO14001 維持審査・更新審査

外部認証機関によりISO14001 規格への適合性審査を行ないます。

年1回の維持審査と3年に一度の更新審査を受けています。



・結果

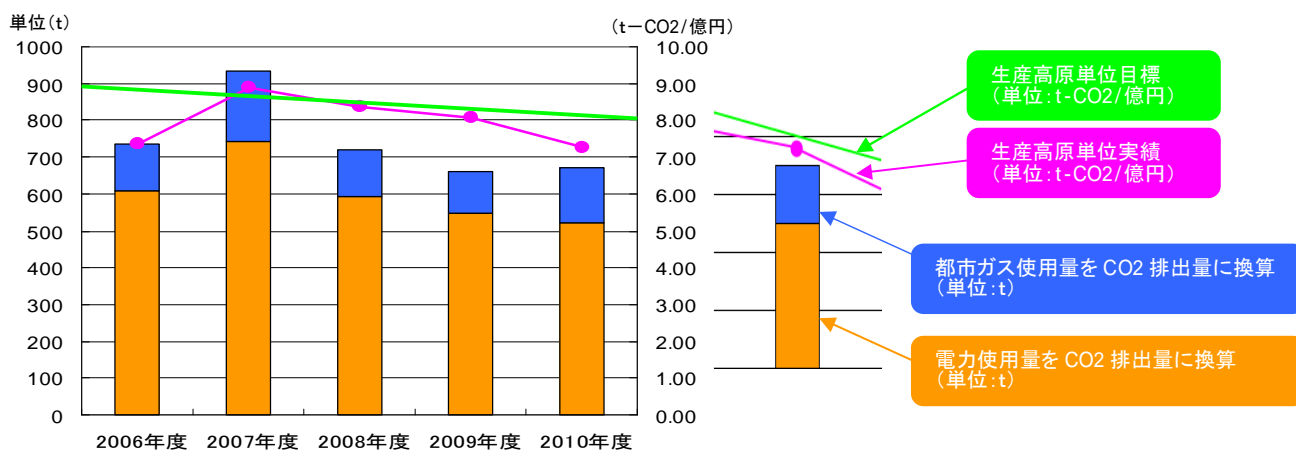
監査・審査の種類	実施時期	対象	結果
内部監査	2010/11月	本社工場	不適合5件、 観察事項12件、 優良事項3件
東芝総合環境監査	2010/09月	本社工場	環境経営監査 B 現場監査 A
ISO14001更新審査	2010/12月	本社工場	認証継続

3. 事業活動での環境配慮

1) エネルギー使用量の管理

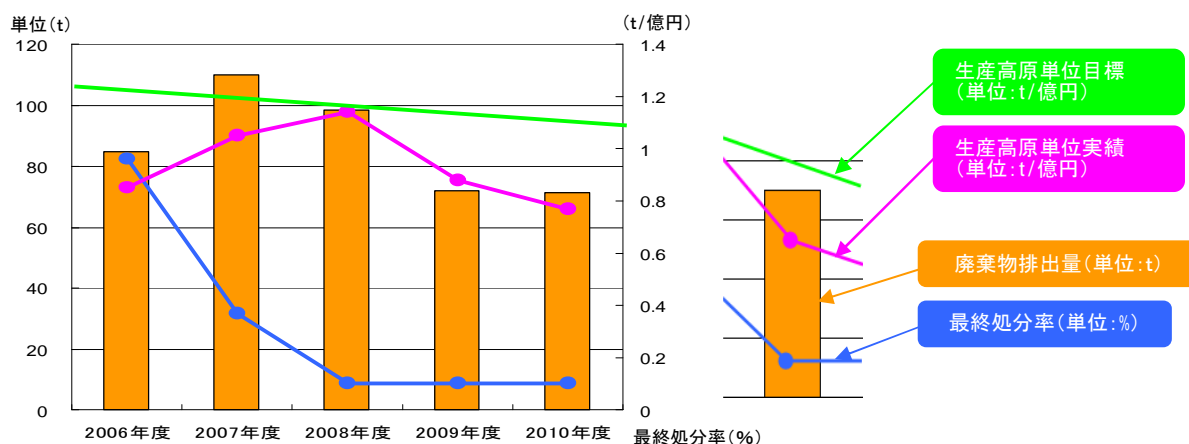
電力・都市ガスなどのエネルギー使用量は、CO₂ の排出量に換算し、生産高原単位での削減を目標としています。

空調設備等、新規に導入する設備等も、省エネ製品を積極的に採用しています。



2) 廃棄物排出量の管理

廃棄物排出量は、生産高原単位で排出量の削減を目標としています。最終処分量は 0.5%以内を維持しています。廃棄物処理業者への視察を定期的実施し廃棄物が適正に処理されているか確認を行なっています。

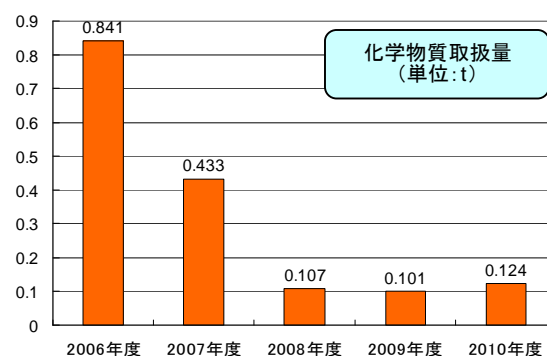


3) 化学物質取扱量の管理

当社で使用している化学物質は、鉛、エチルアルコールなどがあります。

これらは、購入から廃棄まで管理しています。

特に当社では鉛フリーはんだの使用を積極的推進し鉛の使用量は大幅に削減が出来ました。



4. コミュニケーション

当社では、地域社会との共生を目指し、夏祭りに近隣の方を招待しコミュニケーションの向上を図っています。

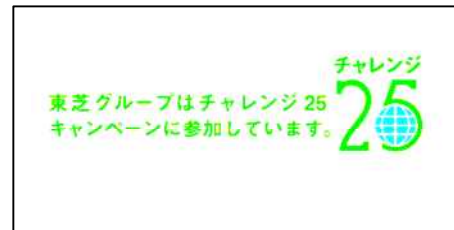
また、温暖化防止活動である「チャレンジ25キャンペーン」へも引き続き参加しています。環境報告書をホームページで公開し、環境活動の内容や成果をご理解いただくために努力しています。

・夏祭りの様子



・温暖化防止活動である

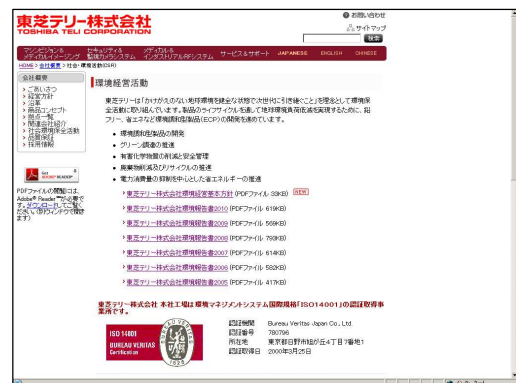
「チャレンジ25キャンペーン」へ参加しています。



・世界の子供たちにワクチンを送ることの出来るペットボトルキャップの回収を通し、「NPO法人Reライフ」の活動に参加しています。



・ホームページでの情報公開(公開中)





東芝グループは、持続可能な
地球の未来に貢献します。

東芝テリー株式会社

企画部 環境管理担当

〒191-0065 東京都日野市旭が丘 4-7-1

2011年12月発行